

【特 集】 吾妻地区コーディネーター研修会（職歴3年目以上）

○研究協議「自校・園の教育支援についての課題」

○講義「障害のある子どもの学びの場・教育課程について」

講師：群馬県教育委員会特別支援教育課指導係指導主事 三島 貴之 先生

参加者の声

研究協議「自校・園の教育支援についての課題」

今回学んだこと・気づき

- 各学校での困難さ。
- 小学校や中学校の話も聞けてよかったです。
- 先生方のいろいろな話が聞けてよかったです。
- 小規模、大規模での学校でも、課題は似ている。
- 校内教職員や保護者へ理解を共有するための支援や配慮。
- 他の学校の先生方も、悩みながら働いてらっしゃるのだと実感。
- 幼・小・中どこもみな支援が必要な子が増えて対応に手が回らない。
- こども園、小学校・中学校と、抱える問題は同じなのだな、と感じました。
- こども園では、小一からの学びについて何をつなげることがよいかお考えになること。
- コーディネーターの仕事量が、学校規模により、大きな差があること。
- 「引き継ぎ」では、学校側から観点を示して情報交換ができれば・・・。」ということに、なるほど、と思いました。
- 園では、ここまでできているが
→小学校に行ってからでは同じ困り感なのか？ 勉強については（園では実態が）分からないため。
- 先生方の現在されていることや、課題をお聞きできて、自分の困っていることと比べ、重ねて考えさせられました。共通した課題で工夫されていることを知ることができて職場での先生方との共通理解や、困っていたら声に出すことの大切さを感じました。
- コーディネーターと通級担当を兼ねる場合書類作りに追われる。（対応）PDF保存でプリントアウトしない。タブレットで会議をする。直接の情報交流が有効（園に行って情報を得る。その場合通級担当だと授業をカットしなければならず、継続支援に支障を来す。）
- 規模や実態は違っても、子どもにとって何が必要なのかを明確にして取り組むことが大切だと思った。
- 町村の予算でも、支援の計画（支援員の活用）が大きく変わるということ。
- 園や中学との引き継ぎにおいて、それぞれの場所（学校）で求めることへの共有の必要性和理解。
- OSTRAWという検査がある。LD等に対する、STRAW-Rの有用性。
- 情報収集、情報活用、情報発信と、情報の活用も重要だと思った。
- 幼（こども園）小・中・高までの連携の仕方を工夫する必要があると思った。
- 各校、こども園からの情報確認について、不十分を補わなければならない。



新たな疑問・課題

- 引き継ぎを上手くいく方法。
- 連携を更に密に。
- 教育支援計画を教育支援会議後、こども園からあげてもらえないか。
- 小学校が必要とする情報の提供。
- 時間と人員不足はどこ園・学校も同じなんだと感じた。
- こども園では、情報公開については控える方向になっているのか。
- 先生だけでなく、(各町村)教育委員会同士も、話し合う機会があるのでしょうか。
- 集団行動ができない子への対応の仕方を学校全体で考える。
- 市町村やこども園によって、支援計画や指導計画の引き継ぎに違いがあるので、他市町村の様子を知りたい。



講義「障害のある子どもの学びの場・教育課程について」

参加者の声



今回学んだこと・気づき

- 教育法規。
- 村の教育支援会議の判定基準。
- 教育支援の流れの確認ができた。
- 日々の活動に追われていて、ついおろそかになりがちなところを、ズバリ指摘していただき、目が覚める思いです。
- 平成25年の転換期についての捉え方について。
- 特別支援の動向や、多様な学びの場などを知ることができました。
- 就学の時期に、とても参考になる内容でした。
- 通常学級の教師がコーディネーターとなって、学校力を高めていくこと。
- 通級入級者の通常学級における割合について。
- 通級は、通常学級で大まかな活動ができ、特定の困難さがある児童が通うべきで、各自が課題意識をもって入級すべきであると改めて感じた。
- 通級や特別支援学級などへの入級における判断は、慎重に様々な考えをもとに合意形成していかなければならないこと、本人、保護者の考えをもとに総合的な判断が大切なことを痛感しました。客観的な視点を大切にしたいと思いました。
- 知的特別支援学級以外では、原則当該学年の学年の授業を行うこと。
- 今の考え方をしっかりと確認できた。就学に向けて動いている時なので、イメージがもてた。
- 学校や学びの場の種類や、各学びの場の受け入れる内容について、改めて確認できた。
- 特別支援学級と、通級指導教室との違い。
- 適切な学びの場の選定において、今回の資料等をもう一度学校に持ち帰り確認していきたいと思う。
- 客観的な根拠の必要性を強く感じた。
- 法律については、このような研修がないと覚えられず、よい機会でした。
- 学びの場や就学の判断について、日頃よく分からないでいたことがしっかりと分かるように説明していただきました。良かったです。
- 就学先の決め方や、選択する際の考え方やプロセスについて学ぶことができた。
- 通級指導教室と特別支援学級の違いについて確認できた。

新たな疑問・課題



- 実態の把握。アセスメントを深める。
- 客観的なデータを取ることに。
- 知的障害と学習障害の違い。
- 主観ではいけないが、身近な教育の観察のことも大切にしたい。
- 担任している子が吾妻特別支援学校中学部に進学の可能性があり、心して支援を続けたいと思います。
- 連続性のある多様な学びの場で「専門的スタッフを配置して通常学級」の、専門的スタッフの配置が難しい学校もある。
- 就学の判断について、観察や検査は行っているが、専門医による診断はない場合が多いが、よいのだろうか。
- 通常学級の中における特別支援のあり方について学校で考えていく必要がある。
- （自治体の）教育委員会の組織で独自に専門家チームがあり、専門アドバイザーや相談員を必要としない場合は、その立場に従わざるを得ない。
- ※①専門スタッフ（支援員）の配置が難しいというお話がありました。しかし、ニーズは高まっています。今後、どのように人材を確保していくのか、お考えを教えてください。
- ※②LDは、医師が診断という話があったが、医療のLDと教育上のLDに違いがあったと思うが、子どもや保護者にはLDとは伝えたりしないが、校内ではLD傾向ということで対応しているが、ダメなことなのだろうか。
- ※③根拠をもって診断したいが、保護者の理解が得られないと、そこがなかなか進まない。
- ※④療育手帳を取得できない子どもさんが、特別支援学級に入級するための条件について周知すること。

※①支援員に関しては、各自治体教育委員会対応による配置となります。

※②③通級指導教室の対象として「学習障害者」があり、「障害の診断」は医師が行うということになります。

※④この場合は、「知的特別支援学級」対象にはなりません。

その他今後の研修等についてのアンケート

参加者の声

今回のテーマ以外で、今後コーディネーターとして学びたいこと・研修したいこと

- アセスメントの仕方について。
- 動画配信を見たいと思います。
- 支援計画や指導計画の書き方と活用の仕方。
- 今回のテーマに取り組むためには（今回だけでは）時間が足りないので、（今後）更に深めていくのも十分です。
- WISC-4。
- 今日示していただいた資料などで、もっと学習したいと思います。
- 不登校児の学びの場について。
- 地域への発信の仕方。（その前に、校内へ浸透させたいですが。）



お世話に なりました

その他（自由記述）

○前半の時間が短く感じました。

○この講義は、特支担任も含め、通常学級の担任に聞かせた方がよい。

○お忙しい中、研修の場を作っていただき、ありがとうございました。コーディネーターは、重要な立場にある仕事だと思いますが、特別支援学級担当・通級指導教室担当が兼任している事がほとんどで、学校全体の児童について詳しく把握するのは難しい状況です。支援を必要とする児童が年々増えている現状の中で、大規模校には、授業をもたない専任のコーディネーターが必要な気がします。

○吾妻教育事務所指導主事の先生の言葉が響きました。自己を振り返りたいです。

○私だけが知っていてもだめなので、園で話し合う時間を持ちたいです。特別支援を必要とする子がいるクラスが当たり前と考えて保育力を園として高められるように、考え方を変えていきたいと思いました。

○とても貴重なお話ありがとうございました。勉強になりました。

○研修の場を設定していただき、ありがとうございました。（講義が）15：30以降の研修で、参加しやすかったです。これからも、こういった機会をよろしくお願いします。

※通級の「学習障害者」と、「知的障害者」の差、区別するためには？

※知能検査・発達検査の、「全検査 IQ」で知的発達の状況が算出されます。学習障害・知的障害の診断は医師が行います。

相談支援室の窓より

～アドバイザー自問自答～

☆職歴3年目以上の園・小・中学校のコーディネーターの先生、コーディネーター研修会では、大変お世話になりました。今回の研修で得られたことを、各園・小中学校にフィードバックしていただければ幸いです。その際、校内研修等の機会がありましたらご説明に上がりますので、ぜひ専門アドバイザーをご活用ください。

☆今回ご参加以外の園・学校様等におかれましても、ぜひ講義の動画をご覧いただき、さらに説明が必要な際は専門アドバイザーまでお気軽にお声がけいただければ、と思います。

☆今年度も、下半期に入りました。今回の研修会を受け、専門アドバイザーとしても、特に「通級指導教室の対象とは」「自立活動とは」「交流および共同学習のあり方（先日、とても素晴らしい実践を見せていただきました。）」について、巡回相談の場、教育支援委員会の場合等において、皆様と一緒に考えていきたいと思っています。今後とも、ぜひよろしくお願いいたします。

御相談等はこちらへ！ メールかお電話での日程調整の後、派遣申請をお願いします

アドバイザー専用（直通） agatoku-snes01@edu-g.gsn.ed.jp

※派遣申請もこちらのアドレスをお願いします。

（群馬県立吾妻特別支援学校 校長 新井 緑 宛）

電話相談・メール相談も受け付けています メール **上記アドレス** 電話 **0279-51-1111**

※不在の場合は後ほど折り返します。

担当：専門アドバイザー 長谷川 健之

